

2020 年度 蘇遙会情報誌

2020 年 9 月 1 日発行

熊本大学工学部 土木建築学科（旧社会環境工学科）土木教室 蘇遙会

2020 年 7 月豪雨による
被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

〔発行〕
蘇遙会事務局
〒860-8555
熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 - 1
熊本大学工学部土木建築学科
土木教室内
Tel : 096(342)3544
Fax : 096(342)3507
E-mail soyoukai@kumamoto-u.ac.jp
HP <https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>

コロナ禍、球磨川氾濫、九州をはじめとする日本全国における豪雨災害。
土木はこれからも社会基盤の整備
とともに環境保全との両立を通じて、
人々に安全・安心な社会を提供し続けます。
(学科長 辻本教授コメント)

2019年度「社会と企業」実施報告

2019年度1年担任 棕木俊文

2018年度より工学部改組に伴い、社会環境工学科は建築学科と統合され、土木建築学科に学科名を更新しました。学科内には土木工学教育プログラム、地域デザイン教育プログラム、建築学教育プログラムの3つが用意され、各プログラムへの配属は成績と希望に基づいて2年次から配属される仕組みに変わりました。したがって、1年次に用意される専門科目は、土木分野にも建築分野にも共通する専門基礎科目となりなります。「社会と企業」という科目は工学部として設置した必修科目であり、2017年度から制度設計が始まりました。これは、在京の熊本大学工学部の同窓会である山水会で実施いただいている3年生を対象とした出前講義とは別の、正規の専門科目になります。

工学部に入学してきた学生に対し、自分の将来へのビジョン、ロードマップ作成のヒントを与えるためには、やはり社会の第一線で活躍されている卒業生による熱意が一番有効であるということで、当時の工学部執行部と各分野の部会とで協議し、本科目の設置が決定されました。2019年度は、当学科から山水会に依頼し、人選を行っていただきました。山水会の菊池良介土木部会長と森一英建築部会長が大変に熱心に本科目のコーディネートを検討いただき、表に示すような授業を1年生に提供することができました。卒業生の皆様には、講師として6回分の授業を担っていただき、その中で土木・地域デザイン分野に3コマ、建築分野に3コマずつ授業回数を分担しました。土木・地域デザイン分野に限って申し上げますと土木全般、地域デザイン、土木技術というシナリオを考えていただきました。菊池部会長には、何度も電話で棕木と連絡を取り合いながら、何度も熊本まで足を運んでいただきました。その熱意は、講師をしていただいた皆様にもしっかり伝播し、どの講演も1年生目線で準備されたとてもわかりやすいものばかりでした。そして、この講義を通して、入学後から土木系の方に進もうと考えていた学生はますますその決意を固くした学生が多かったようです。そして、最終的に2020年度は土木工学教育プログラムに46名、地域デザイン教育プログラムに20名の学生が配属することになりました。95.4%の学生が第一希望ということで、年度末は教員一同、胸をなでおろしたところでございます。

実は、当科目の設置時の条件として、講師の旅費は手弁当であった

ことを申し上げます。6回分の講師の皆様の旅費を全学科分、工学部として準備できないため、講師の旅費を自己負担で来ていただくということで、この科目が成立しました。この点は特に菊池部会長を悩ませたことと思います。当教室としても工学部側に現状を報告し、授業実施環境の改善を要求しているところです。このような厳しい条件下にも関わらず、ただただ「将来の人材育成のため」という思いで、当科目の目的を共有いただけたことに教員一同、心より感謝しております。本当にありがとうございました。

2020年度は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、遠隔授業によって「社会と企業」が実施されることが決まっています。これもまた大変なご苦勞をおかけすることになるかと思いますが、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

講義回数	日程		内容	担当
	月	日		
1	9/30		ガイダンス	学科(伊東・棕木)
2	10/7		学科と社会	学科(佐藤、田中(尚)、田中(智))
3	10/14		学科と企業	西嶋コー一氏(西嶋コーポレーション(株))専務取締役
4	10/21		学科と就職	キャリア支援課
5	10/28		建築の仕事全般	森一英氏(山水会建築部会長)
6	11/11		土木の仕事全般、オリンピックパラリンピック関連施策	菊池良介氏(山水会土木部会長) 富本和也氏(九州地整 企画課補佐)
7	11/18		キャリアデザインセミナー	日本技術士会 熊本県支部
8	11/25		(地域デザイン) 納屋橋再開発プロジェクト	近藤一真氏(大日本土木 戦略事業部専門部長)、原拓也氏(シグマ開発計画研究所 常務取締役)
9	12/2		就業支援講座	熊本県社会保険労務士会
10	12/9		(地域デザイン) 日建設計・地域デザイン等再開発案件+桜町・花畑再開発プロジェクト	杉山俊一氏(日建設計 設計部門設計G グループマネージャー)
11	12/16		(土木技術) 熊本地震復興(遠隔操縦施工技術含む) 外環プロジェクト(土木技術の最前線)	辻芳樹氏(九州地整 地域道路調整官) 奥本現氏(鹿島土木工建設事管理部長)
12	12/23		地方社会における企業	COC+くまもと地方産業創生センター
13	1/20		(建築技術) 大規模建築を支える特殊鋼構造の製作と施工	蓑田勇造氏(日鉄エンジニアリング)
14	1/27		グローバル社会と大学	グローバル教育カレッジ
15			総括	学科

ご挨拶

蘇遙会会長 山尾 敏孝

蘇遙会会員の皆様、今年は新型コロナウイルスと共に生活する「新しい生活」にも慣れましたでしょうか。例年とは全く様式が異なる生活や仕事から新年度はスタートしました。いきなり自粛生活を強いられ、見えないコロナウイルスに怯え、マスク着用、うがいや手洗いの実施、3密を避け、一時は旅行も行けない想定外の状況になっていました。しかし、経済が停滞することは全てに悪影響を及ぼすことから少しずつ回復しつつあるようです。一方で、会社でのテレワークや小・中学校や大学等でのオンライン授業やオンライン飲み会の開催など人と人との接触を極力減らしながらの実施は今までにない苦労があり大変な面もありますが、慣れてくると便利な点もあるようです。今後も更なる対策が求められることになるでしょう。

大学での授業開始や実施状況については別途詳細な報告があるかと思いますが、研究室での3密を避けての研究生生活になっているのでしょうか。教職員と学生達が活き活きと研究・教育などして元気なキャンパスに一日も早く戻って欲しいものです。

さて、このようにコロナ影響は当然蘇遙会運営委員会開催にも影響しました。5月中旬に開催を予定していました委員会は他県からの委員の出席を伴う関係で中止し、委員の皆様には関係資料を送付し、確認と意見をいただきました。そして、学生も参加することを考慮し、学科内での運営委員会を7月2日に開催することで対応しました。今年度の蘇遙会運営委員会は、運営委員長が溝上教授、学科代表に辻本教授、教室の2年担任は椋木教授となりました。また、学生部の方も学部3年の芦辺祐大部長、花宮遼太副部長と森美聡副部長が中心となる新メンバーでこの1年の運営に取り組むことになりました。会議では、例年通り事業計画及び予算案について審議しました。特に、予算については厳しい状況が続いており、皆様の会費納入が柱であることを覚えていただき、会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。

学生部の活動では、早速4月の入学式の中止に始まり、新入生の歓迎会も実施できていません。また、昨年新学科となり、2年生から土木2コース（土木工学と地域デザイン）に配属された学生の新2年生歓迎会も未実施であります。このように対面授業もできず、種々の学生行事も実施できない状態が一日も早く解消されることを願うばかりです。蘇遙会の今年度の学生部コンセプトは「広げる」です。コロナの影響が大きい中で交流の在り方を模索して欲しいものです。

皆様には今年も蘇遙会活動のご支援とご協力を引き続きよろしくお願い致します。

withコロナ時代の大学と蘇遙会の活動

運営委員長 溝上章志

我が国は勿論、世界の歴史に刻まれることになる2020年度に蘇遙会の運営委員長を拝命しました。主に副学科長がこの役を任されてきましたが、蘇遙会の役割の重要性に鑑み、今年度は現役最年長の私が任に当たります。本年は支部・研究室単位での組織強化、出前講義などの活動の活性化、学生部との連携・交流の活発化に取り組む所存です。

昨年度私は学科長を務めておりましたが、本紙の学科長挨拶で「技術と社会に大きな変容を求められる中で、標準化された試験の成績が評価基準であった教育から、今後は絶対的な解が無い課題に対して自ら独自の解を見いだす能力を持つ人材を育てる教育が求められるようになります。そのような潜在能力を持った学生をどのような選抜方法で見だし、どのような教育で肉付けをし、社会に送り出すが私どもには求められています。」と書きましたが、その必要性は COVID-19 禍でより鮮明になりました。

本年度の新入生は入学式や入科式を経験せずに入學し、キャンパスに足を踏み入れることもほとんど無い間に、ビデオ会議システム Zoom と Learning Management System の Moodle を使った遠隔授業を受講している状況です。6月から対面授業も承認されましたが、専門の講義は第2タームまで（前期）は大半が遠隔授業です。板書や読み上げだけによる講義はあり得ないし、輪読や継ぎ接ぎのオムニバス授業では学生も飽きるため、教員は必然的により効果的な授業の方法や参考資料を工夫することになります。また、3密を避けるため一斉実施ができない定期試験の代わりに、どうやって学生の達成度を確認するかについても頭を悩ませています。一方で、学生からは分からないところをすぐに先生に質問できないとか、周りの受講生の雰囲気分からないといったクレームがある反面、教室より集中して受講できたとか参考資料を間近で必要なときに見られるのは良いといった前向きな意見も多く聞かれます。

with コロナの時代には、上記の要請と対応は、大学の講義だけでなく、職場での働き方や生活様式にも求められるでしょう。そんなことを熊大工学部土木系の学生も教員も卒業生も会員である蘇遙会で議論し、実践ができたらと思っています。

寄稿

コロナ禍で想う、 大学時代の”要領の良い”経験が活きていると

環境システム工学科 平成20卒 児玉 健氏



拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度の九州豪雨による水害において被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、復興に尽力されている皆様には安全に留意され、ご活躍されることをお祈りいたします。

私は土木を卒業し、富士通株式会社システムエンジニアとして入社、電子カルテに関するセキュリティ業務に従事し、4年半でサントリーホールディングス株式会社に転職しました。健康食品の通販に関するセキュリティを担当した後に、物流部に異動、現在は自動化や省人化プロジェクトに追われる日々を過ごしています。

昔から何かと面倒くさがりで、要領良くがモットーでした。一言に、「要領良く」と言っても人それぞれですが、私の場合は、現状を俯瞰的に見る→本質を見極める→優先度を決めて、誠意をもって対応する、といったものです。

高校時代までは皆ほぼ同じ生活パターンですが、大学時代から人によって過ごし方が大きく変わります。毎日の授業や研究、バイト、サークル活動、恋愛、趣味など大学生も忙しく、それぞれ要領良くこなしていくことが大事です。この経験が社会人になってからも活きていると感じます。授業やテストで多くのフォローをしてくれた土木の仲間や、研究室時代にほどよく放任しつつも面倒を見ていただいた重石先生や友田さん、研究室の先輩方には感謝の気持ちを申し上げます。先生方も、学生の皆さんに必ずしも「生真面目」に授業を受けて欲しいわけではないでしょう。単位を落とさず要領良くこなして欲しいはずですが、先生方にも自分の研究や他にやりたい事がありますし、双方がハッピーになるのが理想的です。大学時代にしかできないこと（よく学び、よく遊ぶ）や、夢中になれるものに打ち込めるのも大学時代ならではです。熊大、ひいては熊本という地域は規模的にも、物事の

アバウトさ的にもそれがやりやすい環境にあるのではないのでしょうか。もし東京の大学に通っていたら、埋もれて萎縮してしまって、小さく終わってたと思っています。大学時代に要領良くこなしてきた経験のおかげで、仕事をしながらの転職活動や、ソムリエ資格取得のための勉強、様々な趣味に打ち込むことができています。あいにくソムリエ試験は落ちたが…と言った方がオチとしては良いのですが、無事に一発合格したのでここは自慢させていただきます。皆さんは技術士として大学に申告するところを、私はソムリエで申告しました。土木からソムリエ…何て特異なんでしょう。

最近ではコロナの影響でテレワークを余儀なくされ、3月から出社していない状況で、自分の席がまだあるかも不安です。あったとしても書類の山になっているでしょう。次の出社がとても憂鬱です。3月からずっとテレワークで仕事できているのも、以前から要領良くこなし（言い方を変えれば単なる面倒くさがりで、在宅でも仕事可能にされた）、電子化したおかげで出社せずとも何とかなっている状況です。ニュースを見てご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、サントリーでは書類や捺印を電子化推進しています。特に首都圏においては、満員かつ長距離・長時間の電車通勤ストレスから解放されたのは大変大きいと感じています。打合せや会議も全てPCを介したオンライン会議になり、対面が必要そうな社外との打合せや監査関連もオンラインで実施しています。正直ここまで働き方が変わるとは思いもしませんでした。いざやればできるものだと思いましたが、アフターコロナの働き方が盛んに議論されていますが、今後はテレワーク中心で、居住地も地方や郊外を認めるよう、物流部から人事・総務に働きかけているところです。この原稿を書いているときに、カルビーが単身赴任を廃止、テレワークを無期限許可と報じました。家族のあるべき姿ですし、素晴らしい会社だと感じました。他社もどんどん追隨してほしいです。

一向に収束する様子のないコロナ禍や、年々激しさを増す豪雨災害ですが、蘇遙会の皆さまにおかれましては、コロナや大雨と上手に付き合い、「要領良く」人生を謳歌されていることと存じます。まだまだ暑い夏が続きますが、くれぐれもご自愛ください。

コロナ禍での退職

尾原 祐三

今年になってすぐに中国武漢で新型コロナウイルスの疾患が増大していることがテレビなどで報じられました。新型コロナウイルス感染拡大のはじめの頃は「対岸の火事」のように感じ、日本には上陸することも無く時間が経てば収まるものと楽観していました。しかし、2月11日にWHOがCOVID-19と命名したころには日本でも感染が拡大し、全国で集会を伴う様々な催しは尽く中止に追いやられてしまいました。

私の場合も例外ではなく、準備していただいた最終講義、退職記念パーティーは延期、大学や工学部主催の退職記念パーティーも中止、退職に関わるスケジュールはすべて空白となりました。40年間勤めた熊本大学から退職するという大きな感慨もなく、淡々と時間は過ぎて3月31日に無事退職を迎えました。準備をしてくださった先生方、参加を予定してくださった多くの皆様には申し訳なく思うとともに、私自身もなんとなく味気なく、いつの間にか退職した感が否めません。しかし、自粛生活によって平穏な日常生活を送りながら熊本大学を去ることができたことは、これまた一生の思い出となりました。

卒業生におかれましても、コロナ禍となり、本来なら卒論、修論を終え、卒業前にゆっくり羽根を伸ばすこともできず、さらに卒業式、謝恩会が中止になり、皆で歓喜すること無く熊本大学を旅立つことはとても不本意であったと思います。しかし、将来親になったとき、「2020年はCOVID-19が世界中に感染が広がり大変な年だったんだよ」と笑って子供に話して聞かせる

日を想像して、2020年を稀有な思い出としてしっかりと脳裏に焼き付けていたきたいと思います。

4月1日から、熊本県立技術短期大学校（技大）の校長に就任にしました。就任式から始まる様々な催しをこなし、技大

では、COVID-19の感染防止対策を徹底した入學式、ガイダンスを対面で行なうことができました。しかし、緊急事態宣言が発せられて休校となり、休校中の学生との連絡や課題提供、テレワークのためのネット環境の整備、オンライン授業のための準備と目まぐるしく時間が経過しました。現在は通常授業に戻っています。退職前の自宅と大学を往復だけの静かでゆったりした生活を考えると、別世界に飛び込んだようですが、老体に鞭打ちながら頑張っております。卒業生、在校生ともどもこれまで経験したことのない環境での生活とは思いますが、この環境の中では、「パッション（情熱）をもって、アクション（行動）を続ければ、ミッション（使命）が見えてくる」（藤田琴子、朝日新聞 20200510）と思います。今という時を楽しんでください。



メールアドレスの登録と更新をお願いします。

令和2年5月20日現在は285名（2018年は137名）の方が情報誌をEメールで受け取るように設定しています。また、転居などで郵送での連絡ができなくなった場合にもメールアドレスが変わっていなければご連絡を差し上げることが可能ですし、アドレスの公開設定を「同期生に公開」または「全卒業生に公開」を選択いただければ、研究室からのご連絡先として利用することも可能になります。個人情報もしっかりと守られており、ログインできる会員以外の方は会員情報を閲覧できません。また事務局からの**連絡受け取り方法をEメールに変更頂くと、情報誌やデータカード確認のお知らせをどこにいてもEメールで受け取ることができます。**メールに情報誌等をPDF書類にして添付して送付します

熊本大学工業会福岡支部土木部会 総会報告

土木工学科 平成2年卒 岸川雄次



2019年11月27日（水）に、令和元年度熊本大学工業会福岡支部土木部会総会が開催されました。

退官された三池先生、蘇遙会会長の山尾先生をはじめ、教室から田中先生と椋木先生が参加され、80歳代から20歳代までの老若男女合わせて60名近くの同窓生が、産学官の枠を超えて多数参加され、賑やかな総会となりました。

また、九州産業大学名誉教授の水田先生より、スロッシング抑制に関する研究発表がなされ、皆さんとも興味深く聞き入られていました。

歓談の時間には、学生時代の思い出話や、校舎や黒髪地域の今昔の様子、近年の土木技術者の課題など、様々な話題で盛り上がっていました。

最後に、福岡市の荒木先輩による巻頭言と福田先輩による乾杯で宴を終えました。その後、2次会へとたくさんの方が流れていきました。

来年度もまた、皆さんと元気な姿でお会いできることを楽しみに、また、今回参加できなかった同窓生の皆さんにも、来年は会えることを願っています。

支部連絡先 各支部に新規登録される方はご自身で連絡を取ってください。

支 部	担当者氏名（卒年）	連絡メールアドレス
東京	坂西 由弘（2006年学部卒、2008年院修了）	sakanisy@kajima.com
大阪	高岡 次義（1977年学部卒）	tsugiyoshi.takaoka@okumuragumi.jp
愛媛	羽倉 伸一（1989年学部卒）	hagura-shinichi@pref.ehime.lg.jp
山口	伊藤 信行（1978年学部卒、1980年院修了）	nuobt4118@pasco.co.jp
福岡	岸川 雄次（1990年学部卒）	kishikawa-y9910@pref.fukuoka.lg.jp
北九州	二見 昌太郎（1994年学部卒）	shoutarou_futami01@city.kitakyushu.lg.jp
佐賀	岩橋 良憲（1999年学部卒、2001年院修了）	iwahashi-yoshinori@pref.saga.lg.jp
長崎	三道 千工（1999年学部卒）	chie.sandou@pref.nagasaki.lg.jp
熊本	宮崎 晶兆（1992年学部卒）	miyazaki.akiyoshi@city.kumamoto.lg.jp
大分	石和 徹也（1991年学部卒）	ishiwa-tetsuya@pref.oita.lg.jp
宮崎	梅田 尚宏（2003年学部卒）	umeda-takahiro@pref.miyazaki.lg.jp
鹿児島	坂元 圭一（2010年学部卒、2012年院修了）	keiichi-sakamoto@pref.kagoshima.lg.jp

コロナ禍の中で

土木建築学科 学科長 辻本剛三

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことをお慶び申し上げます。また、平素より本教室へのご支援に深くお礼を申し上げます。平成 28 年に本会報に新任のご挨拶をさせていただき、4 月より前学科長の溝上章志先生より、令和 2 年 4 月 1 日より学科長を仰せつかわりました。

話は前年度に遡りますが、センター試験、前期入学試験を終えた頃から、学内での集会が自粛・延期され、後期入学試験は無事に終わりましたが、修了式、卒業式、卒科式が中止となってしまいました。そのような中で 2016 年の入学時に熊本地震を経験した社会環境工学科 79 名、仮設と新学舎で研究に打ち込んだ大学院自然科学研究科前期課程社会環境工学専攻 38 名が巣立って行きました。

2020 年度入学式は中止となりましたが、土木建築学科に 124 名、大学院自然科学教育部博士前期課程土木工学科に 43 名、同後期課程工学専攻に 4 名の新生を迎えました。学生の登校禁止、教職員の在宅勤務が推奨され遠隔による講義を円滑に行うため、教室内では伊藤先生や担任の先生方を中心に環境を整えていただき、2 週間遅れで始まった第 1 ターム^{*}が無事終了しました。第 2 タームも、遠隔と対面講義が混在する中、手探り状態で研究・教育活動が行われています。

さて、土木教室教員の異動では令和 2 年 3 月をもって尾原祐三先生が定年退職されました。37 年の長きにわたり大学の管理運営や土木教室のためにご尽力いただきました。現在は熊本県立技術短期大学の校長として若い技術者の育成に尽力されておられます。一方で、濱武英先生（くまもと水循環・減災教育センター、地下水循環部門）が京都大学大学院農学研究科 地域環境科学専攻の 准教授に異動されました。新天地におかれましてもご活躍されることを期待しております。喜ばしいご報告としまして、椋木俊文先生が令和 2 年 4 月 1 日付けで教授に昇進されました。熊本大学の OB であられ、学科のみならず将来の熊本大学を背負っていただけると確信しております。また、森山仁志先生が「板幅および板厚が高力ボルト摩擦接合継手の支圧限界状態に与える影響」の論文に対して、土木学会田中賞を授与されました。当土木教室としても大変名誉なことであり、益々精進されることと期待しています。

本年度は土木建築学科として 3 年目となり、学部 2 年次には各プログラムに所属するため、初めて 1 年次の GPA に基づいて配属が行われました。128 名中土木工学教育プログラムに 46 名、地域デザイン工学教育プログラムに 20 名、建築学プログラムに 62 名がそれぞれ所属し、当初懸念しておりました予想とは大きく異なり、約 98% の学生が第 1 希望通りとなりました。卒業生の皆様の職場や社会でのご活躍の様子を「社会と企業」、「インターンシップ講演会」等を通じて、学生が直接見聞きし、関心が高まったことによるものであり、深く感謝しております。

末筆になりましたが、蘇遙会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

^{*}ターム制…1 年間で 4 つの学期に分け、2 ヶ月完結型（90 分×8 回）で 1 単位の履修が可能。

◆都道府県別蘇遙会会員数

（登録自宅住所で分類）

2020 年 5 月 20 日現在 物故者除く

北海道	5	滋賀県	9
青森県	1	京都府	24
岩手県	2	大阪府	84
宮城県	11	兵庫県	68
秋田県	0	奈良県	13
山形県	0	和歌山県	6
福島県	4	鳥取県	4
茨城県	18	島根県	8
栃木県	4	岡山県	11
群馬県	9	広島県	57
埼玉県	49	山口県	67
千葉県	89	徳島県	7
東京都	148	香川県	4
神奈川県	97	愛媛県	20
新潟県	3	高知県	5
富山県	0	福岡県	918
石川県	2	佐賀県	121
福井県	3	長崎県	177
山梨県	3	熊本県	825
長野県	1	大分県	231
岐阜県	6	宮崎県	148
静岡県	6	鹿児島県	152
愛知県	35	沖縄県	8
三重県	5	不明・その他	655
合 計		4,123 名	

教職員紹介

教員氏名 (研究室名)	職名	近況
大谷 順 (地盤工学研究室)	教授	6月の総会をもって2年間の地盤工学会会長職を終えました。任期中には豪雨災害に関する提言書を作成し、国土交通大臣や次官に直接お渡ししています。大学の副学長職は今年度までの任期となります。
大本 照憲 (河川環境研究室)	教授	熊本大学を退職するまでの期間が残り8ヶ月余りとなりましたが、やり残したことも多く、多忙な日々を送っています。ところで、新型コロナウイルス感染防止のため、2020年度に予定していた4回の海外出張は全てキャンセルとなり残念な年となりました。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	新型コロナ感染予防で、何もかも自粛の中、先日、やっとプロ野球も無観客で開幕。試合を見に行ける日が来ることを楽しみに待つ今日この頃です。今年こそ、ホークスはリーグ優勝した上で日本一に！
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	わずか数か月で人間の、そして人間社会の現実を、まざまざと見せつけられた気がします。でも、ほんのちよびつとだけ、この国とこの国の国民であることに誇りを持てた気もします。
重石 光弘 (環境材料工学研究室)	教授	新たな感染症の世界的流行が突き付けた問題は本来の現代社会に隠されていた多種多様な問題を顕在化させた。さらに絶えず繰り返される自然災害に加わる。しかしピンチはチャンスである。今こそ動き出す時なのだ。
辻本 剛三 (応用海岸研究室)	教授	教務委員長を終えて間を空けることなく学科長を仰せつかりました。教室の先生方の御協力を頂きながら、出来ることをやっております。コロナ禍でバドミントンができないのが痛いですね
松村 政秀 (構造力学研究室)	教授	熊本での1年目はあっという間に過ぎました。研究室の学生数はほぼ倍増となり活発になってきています。
溝上 章志 (交通まちづくり研究室)	教授	いよいよ定年の年となりました。今年は運営委員長として蘇遙会の活動の運営に当たります。一方で、「自動運転シェアリングや MaaS が描くモビリティと都市」の研究にも奮闘中で、それが少しずつ現実になってきています。公私とも最良の年にしたいです。
椋木 俊文 (環境地盤工学研究室)	教授	この4月から教授に昇進し、減災センターの併任教員になりました。今後は異分野融合によって土木分野に新しい力をもたらして、本学の国際教育研究活動を盛り上げていきたいと考えています。
尾上 幸造 (複合材料工学研究室)	准教授	昨年の関東現場見学会ではOBの方々に大変お世話になりました。今になって思うとコロナ禍の前に実現できて良かったです。今年は4年担任として最後まで気を抜かず責務を果たしたいと思います。
葛西 昭 (構造力学研究室)	准教授	まだ、なかなか授業を受け持つことが難しい状況にありますが、研究活動は少しずつ始めています。お立ち寄りの際はぜひ研究室にも顔を出していただければと思います。
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	准教授	コロナ禍という前代未聞の出来事の最中に1年生担任の役を仰せつかりました。顔を合わせることも、大学に出でくこともままならない学生の皆さんに正確な情報を如何に的確に伝えるか、毎日頭を悩ませています。
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	准教授	平成28年熊本地震で被災した益城町の幼稚園・保育園・小学校・中学校21施設の調査を終えて冊子にまとめました。3年かかりましたが形にできて安堵しています。7/4に球磨地方で大規模な水害が発生しました。災害後だけでなく長期的視点で現地に入り記録をまとめていきたいと思っています。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	熊大15年目になる今年、熊本地震の復興は5年目を迎え、全世界が covid-19 の危機に陥っています。今こそ、皆さんと対話することで、熊本らしい丁寧な暮らしを創っていきたいです。
藤見 俊夫 (災害リスクマネジメント研究室)	准教授	熊本県南部の水害の現地調査に行ってきました。人吉の浸水状況を見て、社会インフラでの防災・減災の限界を痛感しました。
星野 裕司 (景観デザイン研究室)	准教授	コロナに水害、なかなか大変な1年になりそうです。でも、人々の日常を豊かにする景観デザインを考える上で、とても大切な1年になりそうです。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	准教授	オンラインでのグループワーク形式の演習に苦勞しています。先生側は全体の進行を眺めにくく、学生側も他のグループの様子がわからないこと等が課題で、対面のありがたさを再認識しています。

2020 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

皆川 朋子 (河川・流域デザイン研究室)	准教授	球磨川での甚大な水害。恐れていたことが起きてしまいました。国土交通省も流域治水への転換を掲げています。その具体策や持続可能な地域とは？ 真剣に考えていきたいと思っています。
石田 桂 (河川環境研究室)	助教	令和 2 年 7 月豪雨の調査・解析中。 (事務局より…「大変多忙でメッセージを考える余裕がない」とのことでした。)
伊藤 紘晃 (水質環境学研究室)	助教	最近はいろいろなルーティーンが増えました。帰ったら真っ先にお風呂に入るとか、火曜日は 10 時からのドラマを見るとかです。ルーティーンがあるとコンディションが整えられる感じがします。
森山 仁志 (構造力学研究室)	助教	熊大 2 年目です。お酒の趣向が日本酒から米焼酎に代わり、熊本に慣れたのかなと感じております。新しい生活様式を取り入れつつ、今年も変わらず、熊本を満喫したいと思います。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	大本研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	園山 恵	佐藤研究室秘書
	吉永 徹	技術専門職員	草場 静香	大谷、椋木研究室秘書
	佐藤 宇紘	技術専門職員	出田 香織里	田中研究室秘書
	上田 誠	技術職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	橋本 淳弘	技術職員	北園 聡子	皆川研究室秘書
	工藤 麻子	土木建築工学科土木系事務室	森永 尚子	溝上研究室秘書、蘇遙会事務局

★濱 武英 准教授は 2020 年 4 月に京都大学農学部地域環境工学科へ異動されました。

新任のごあいさつ

橋本 淳弘 はしもと あつひろ (技術部)

土木系技術職員として採用されました橋本淳弘と申します。

私は、本学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻(博士前期課程)を 2014 年 3 月に卒業後、民間企業に就職し、地質調査等のボーリング工事施工管理業務に携わり、2020 年 4 月より職員として戻って参りました。母校である熊本大学で働くことができることを、大変嬉しく思っております。

私の業務内容としましては、主に構造系および材料系研究室の実験支援を担当しております。まだまだ不慣れで分からないことが多いですが、各先輩方の指導のもと、日々業務に励んでおります。

ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、業務を通して学生時代大変お世話になった蘇遙会に少しでも恩返しできればと存じますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



会費納入のお願い ～先輩から後輩へ応援のエールを～

蘇遙会は在学生への支援として、蘇遙会の収入より蘇遙会学生部活動費を拠出しており、それを受けて学生部は新入生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭(大学祭)への参加を行います。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれるような活動に力を入れています。

皆様のご理解とご協力をいただき、後輩である在学生たちに多くのご支援を賜りたく、会費の納入をお願いする次第です。

研究室配属人数および学部学生数（1～3年）（2020年4月22日現在、10月入学生、社会人ドクターを含む）

	研究室(担当教員)	学部4年	修士1年	修士2年	博士1年	博士2年	博士3年	研究員	合計
土木工学 教育プログラム	地盤工学研究室 (大谷)	7	1	8	0	0	0	3	19
	河川環境工学研究室 (大本・石田)	6	2	1	1	1	1	0	12
	地域公共政策研究室 (柿本)	5	1	1	0	2	0	0	9
	環境材料工学研究室 (重石)	5	1	0	0	4	0	0	10
	応用海岸研究室 (辻本)	4	2	0	1	0	1	0	8
	社会基盤計画研究室 (溝上)	4	3	2	0	0	3	0	12
	複合材料工学研究室 (尾上)	4	2	3	1	0	1	1	12
	深部地下環境工学研究室 (佐藤)	4	3	6	0	1	0	0	14
	地域防災研究室 (竹内)	4	1	0	0	0	0	1	6
	河川・流域デザイン研究室 (皆川)	4	2	2	0	0	0	1	9
政創研※	環境地盤工学研究室 (椋木)	4	3	1	0	1	1	2	12
	地域風土計画研究室 (田中)	4	5	5	1	0	1	0	16
地域デザイン 教育プログラム	水質環境学研究室 (川越・伊藤)	6	3	3	0	0	1	1	14
	構造力学研究室 (松村・森山)	6	4	0	0	0	0	1	11
	災害リスクマネジメント研究室 (藤見)	4	2	4	0	1	1	0	12
	景観デザイン研究室 (星野)	4	6	2	1	0	1	1	15
	交通政策分析研究室 (円山)	5	2	3	0	1	1	0	19
合計		80	43	41	5	11	12	11	203

※政策創造研究教育センター

学部生 1~3年	1年	土木建築学科(コース選択前)	127	1年生は土木建築学科入学生の総数です。2年生進級時に「土木工学」、「地域デザイン」、「建築学」にコースが分かれます。蘇遙会では「土木系」として、「土木工学」および「地域デザイン」を卒業する学生を対象とします。 改組前入学の学部4年生および3年生は社会環境工学科卒業となります。
	2年	土木建築学科土木工学	46	
	2年	土木建築学科地域デザイン	20	
	3年	土木建築学科土木工学	22	
	3年	土木建築学科地域デザイン	59	
	3年	社会環境工学科	12	

◆令和2年3月学部卒業生進路【順不同】

国土交通省、熊本県、大分県、熊本市、鹿児島市、九州大学、(株)大林組、鹿島建設(株)、熊谷組、(株)鴻池組、大成建設(株)、(株)長大、東亜建設工業(株)、西松建設(株)、(株)NIPPO、前田建設工業(株)、前田道路(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、玉野総合コンサルタント(株)、中央コンサルタンツ(株)、(株)東京建設コンサルタント、西日本コンサルタント(株)、(株)日本構造橋梁研究所、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)、復建調査設計(株)、三井共同建設コンサルタント(株)、(株)横河ブリッジ、西日本高速道路(株)、西日本電信電話(株)、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程、神戸大学大学院工学研究科前期博士過程、未定

◆令和2年3月大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

農林水産省、国土交通省、熊本県、佐賀県、福岡市、(株)奥村組、鹿島建設(株)、(株)建設技術研究所、清水建設(株)、大成建設(株)、東亜建設工業(株)、(株)富士ピー・エス、(株)不動テトラ、応用地質(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、九州建設コンサルタント(株)、(株)東京建設コンサルタント、(株)トーニチコンサルタント、内外エンジニアリング(株)、(株)日建技術コンサルタント、日本工営(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)福山コンサルタント、八千代エンジニアリング(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、(株)九電工、西日本高速道路(株)、西日本電信電話(株)、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、一般財団法人 計量計画研究所 IBS、S.T.E Vietnam

在学生の声

新型コロナ肺炎の感染拡大により、休校・リモート授業などを余儀なくされた学生に、今（7月初旬現在）の状況について率直な意見を聞いてみました。

- 家で授業を受けられるので、移動時間が省かれ、他の事に時間が割けるようになった。しかし、テンポの悪さや生徒側が真に受けないなど授業の質が下がっているの、リモートはよくないと思う。今の状況でみんなに会えないのと部活ができないのが苦痛。(学部 2 年 濱砂翔)
- 授業と課題が溜まりに溜まってパンクしそうです。(学部 2 年 わかめちゃん)
- リモート授業で、教授と面と向かって教わるわけではないので理解度が対面と比べると低い。(学部 2 年 まさてい)
- 自分の時間に合わせて授業を受けられるので良かった。(学部 2 年 れいな)
- 授業の振り返りがしやすく、自分のペースで学習できて良かった。(学部 2 年 みなみ)
- 緊張感を持って授業を受けることができなかった。(学部 2 年 山田涼介と身長同じ)
- 学生は授業のため、学内に移動する時間が省ける。先生側も授業のオンデマンドを作成しておくことで、通常の授業の時よりも、本職である研究に時間を割くことができるとのこと。双方において、授業のために費やす時間を短縮できるのは魅力だと思った。コロナ収束後も、うまくリモートと対面をハイブリッド出来たら良いと思う。(学部 2 年 加湿器)
- オンラインでは授業に対するモチベーションが上がらなかった。(学部 2 年 橋本直樹)
- 提出物を出し忘れることが多くなった。(学部 2 年 あと5キロ痩せたい人)
- スライドを使いながらの授業は、普段の黒板を使いながらの授業より見やすく良かった。ビデオを使った授業でテンポが遅くて頭に入らなかった授業があったので、倍速機能が欲しい。(学部 2 年 マリオン)
- オンデマンド形式の授業は自分のペースで勉強できるし、難しいところも聞き返せるのでとてもありがたい。(学部 2 年 宮坂芳樹)
- 内容理解が対面より難しいのにテストは通常通りなので大変だった。(学部 2 年 オーバー160)
- わかりにくいところを繰り返し学べる所は良いが、課題への負担が大きいのが理由でモチベーションがあまり上がらなかった。(学部 2 年 きんに君)
- 学校まで行く時間が省けることは良かったが、わからないことなどを周りに友達も先生もいないのですぐに解決できない所が苦しかった。(学部 2 年 磯部太夢)
- 自分のペースで勉強できる所は良かったけど、達成感があまり感じられず、早く対面授業がしたい。(学部 2 年 ティンダー始めたいきり前髪)
- ビデオでの授業は振り返りがしやすく良かったが、対面授業のような緊張感などは無かったのでモチベーションが上がらないときがよくあった。(学部 2 年 吉田陸)
- リモート授業は対面に比べて直接疑問点が聞けないなどの難点がありますが、時間を有効に使えるなどの利点も沢山あるので利点をうまく活かして学習を深めていきたいです。(学部 3 年 豆粒の大群)

- リモートになったことで先生の発言等をパソコンでそのまま文字入力してメモをすることができるため、たくさんの発言を聞き取れるようになりました。そのため、ノートにまとめる際にたくさんの情報整理ができるため、今までより質の高いノートを作ることができていると感じています。(学部 3 年 天然水と人間のハーフ)
- 土木という仕事はコミュニケーション不可欠だと思うので、このような状況の対応力を学生のうちに向上させたいです。グループワークの話し合いはやりづらいなと感じましたが、それ以外はスムーズに進めることができおり大きなストレスはありません。(学部 3 年 ごはん大好きまじろう)
- TOEIC 制度排除しろ-----!!!!!!! (学部 3 年 休学ノート)
- 実験してないのに実験のレポート書かないといけないのはきついです。(学部 3 年 りんごちゃん)
- 講義のスライドを授業後に見直せる点はとても良かったです。(学部 3 年 なっとう)
- 授業が振り返りやすくていいです。(学部 3 年 暗黒の騎士団)
- 教室移動の手間が省けるので、時間を有効に使えて良いです。(学部 3 年 やのちゃん)
- 理解が難しい内容の授業においては、対面の重要性を知りました。ですが、スライド資料を用いる授業においては、リモートで十分であると感じました。(学部 3 年 じろを)
- 通学に時間がかかっていたが、その時間が省けて有効活用できるようになりました。(学部 3 年 みやもと)
- 学生側も教員がわもなれない環境で妥協しあった結果がオンライン授業であり、急な対応だったことを踏まえればいい対応だった。しかしお互いに不満が残る結果となったため、学生側と教員側の意見をまとめて次に生かせば良いと思います。(学部 3 年 小川連太郎)

蘇遙会学生部

2020 年度のテーマは「広げる」

3 年 学生部部长 芦辺祐大

このテーマには「蘇遙会のイベントを通して同級生や先輩後輩との繋がりを広げていきたい」、「社会環境工学科から土木建築学科になったことで建築コースの学生や教授とも関わる機会も増え、さらに和を広げていきたい」という願いを込めました。

3 月から新体制で活動を開始しましたが新型コロナウイルス感染予防の影響もあり、初めてのイベントとなるお花見を開催することができませんでした。また、4 月、5 月に開催予定であった新入生歓迎会やソフトボール大会なども未だに開催することができていない状況です。出来るだけ早い開催に向けて動いていますが、いつ開催できるか見通しはついていません。状況が落ち着いた後、感染拡大防止対策を取りながらイベントを行なっていきたいと考えています。イベントを通して新入生に土木分野や蘇遙会の魅力を伝え、学年を超えた交流の場を提供できるように努力していきたいです。



↑ 昨年の蘇遙会研修旅行



↑ 昨年の工学部運動会